

## 夢洲土地造成事業のリスク管理

昨日もレポートしたが、7日の「大阪 IR カジノ説明会」に参加した。NHK ニュースが伝えたように「質問を遮るような形」で終わり、手を挙げ続けたのに質問できなかった。無視され無性に腹が立ったが、すこしだけ成果もあった。最初に質問した港湾に詳しい人が、夢洲など土地造成事業の収支見通しを問うと、昨年末に「危機管理」で確認したと回答。どうも気に入り、翌朝に調べてみると重要な会議資料を見つけた。12月8日に開催された「令和3年度第1回(第8回)大阪市大規模事業リスク管理会議」である。市役所で定期的に関係資料をチェックしているが、これは見逃していた。説明会で質問された人に感謝したい。重要な指摘も多いが、とりあえず夢洲の事業収支の将来見込みについて、議事要旨を紹介する。

〈外部委員〉埋立事業全体では資金不足にならないとのことだが、これは他の埋立地の売却や賃貸が前提となっている。その前提が狂うと、埋立事業全体の黒字が実現可能なかが気になる。

〈大阪港湾局〉リスク管理表の対応策に記載しているように、夢洲は観光を主として売却、賃貸していきまますし、それ以外の土地では、物流系を主として売却していくという計画で、土地の売却状況としては、物流系ではコロナに関係なく想定をかなり超える土地利用ができており、今臨海部における物流用地の分譲の入札をすると予定価格の数倍で落ちるといっているのが多いので、しばらく堅調に続くと思っています。ただ、一方で観光はおっしゃるように、IR事業を含めて、今後どうなっていくか。そこは推移をやはりきっちりと見守らないといけないと思っています。

〈外部委員〉夢洲土地造成事業単体での収支見込みが、この会議で議論してきた夢洲土地造成事業自体が成功するのか、さらにはリスクがあるのかということの評価になる。いつ黒字化するのかに市民の関心があるのではないか。

写真は大阪港埋立事業のうち夢洲土地造成事業の収支見込みである。2020年から2064年まで長期にわたるもので、どういいうわけか2030年にプラスに転じるものの、その後は急激な下降線を描き、2053年に1120億円のマイナスとなる。そして2076年度以降、累積資金残高はプラスとなる見込みとしている。この間、長期にわたり一般会計から繰り入れなどしないと、港営事業会計の運営が困難になる。

こんな収支見込みになるのは、夢洲の土壌対策などへの790億円の起債が大きく影響している。詳細は来年度予算案で示すというが、夢洲開発には大きなリスクがある。

(2022年1月9日)

